

令和 3 (2021) 年度修士課程入学試験案内

言語情報科学専攻 超域文化科学専攻
地域文化研究専攻 国際社会科学専攻

この案内書は、令和 3 (2021) 年度東京大学大学院総合文化研究科修士課程学生募集要項(言語情報科学専攻・超域文化科学専攻・地域文化研究専攻・国際社会科学専攻)を補足するものである。

1. 募集人員について

超域文化科学専攻及び国際社会科学専攻においては、下記のとおり分野別に募集人員を定めており、分野ごとに入学試験を実施する。

超域文化科学専攻：表象文化論分野 14名、文化人類学分野 7名、比較文学比較文化分野 14名
国際社会科学専攻：国際関係論分野 11名、相関社会科学分野 10名

2. 第 1 次 (筆記) 試験について

(1) 試験科目は、専攻又は分野ごとに、また、一般出願者、外国人出願者(外国人の社会人特別選抜出願者を含む)、社会人特別選抜出願者でも異なるので、十分留意すること。

【各専攻(分野)による第 1 次試験出題表(外国人出願者には、外国人の社会人特別選抜出願者を含む)】

		一般出願者	外国人出願者	社会人特別選抜出願者
言語情報科学 ^①		英語 I 及び試験科目表外国語(II)の選択範囲から 2 科目 計 3 科目	英語 II 又は日本語のいずれか 1 科目 計 1 科目	英語 I 及び試験科目表外国語(II)の選択範囲から 1 科目 計 2 科目
超域文化科学	表象文化論 ^②	同上	日本語 1 科目のみ	同上
	文化人類学 ^③	英語 I 及び試験科目表外国語(II)の選択範囲から 1 科目 計 2 科目	英語 I 及び日本語 計 2 科目	同上
	比較文学比較文化 ^④	英語 I 及び試験科目表外国語(II)の選択範囲から 2 科目 計 3 科目	日本語 1 科目のみ	同上
地域文化研究 ^⑤		同上	同上	同上
国際社会科学	国際関係論 ^⑥	英語 I 及び試験科目表外国語(II)の選択範囲から 1 科目 計 2 科目	英語 I 及び日本語 計 2 科目	同上
	相関社会科学 ^⑦	同上	同上	同上
専門科目については、上記①～⑦の専攻又は分野ごとに試験する。				

※上記表の専攻欄②、③、④、⑥及び⑦の名称は、専攻内における分野を表す。

(2) 試験科目については、学生募集要項の 3. 選抜方法及び専攻別試験科目の (2) を参照し、該当する者は出願前のなるべく早い時期に、本研究科事務部に問い合わせること。

3. 第2次(口述)試験について

- (1) 第2次(口述)試験は、第1次(筆記)試験に合格した者を対象に、主として専門科目について行う。
- (2) 超域文化科学専攻(文化人類学・比較文学比較文化)及び国際社会科学専攻の口述試験については、日本語で実施する。
- (3) 専攻によって外国人出願者に対し外国語の筆記試験を行う場合には、第1次試験合格者とともに発表する。

4. 入学願書作成に関する注意

- (1) 入学願書は、「一般出願者・外国人出願者」用(桃色)と「社会人特別選拔出願者」用(紫色)に分かれていますので、記入する際は十分注意し、どちらか一方を提出すること。
- (2) 入学願書は、正・副2枚ある。必ず2枚とも提出すること。
- (3) 「受付番号」及び「受験番号」欄以外は、該当する箇所すべてを記入すること。特に裏面の「履歴事項」等の記入を忘れないこと。
- (4) 超域文化科学専攻又は国際社会科学専攻を志望する者は、上記1. に記載の志望分野名を「志望専攻」欄に必ず記入すること。
- (5) 「受験外国語」欄について
 - ア. 外国語科目は、各専攻又は分野ごとに、また、一般出願者、社会人特別選拔出願者、外国人出願者(外国人の社会人特別選拔出願者を含む)でも異なる。学生募集要項3.(2)の表を十分確認の上、記入すること。
 - イ. 英語Ⅰを受験する必要がない者は、「英語Ⅰ」の欄を斜線で抹消すること。
 - ウ. 日本語を受験する者は、「外国語(Ⅱ)[選択外国語]」欄の(1)に日本語と記入すること。
 - エ. 地域文化研究専攻に出願する一般出願者は、入学後研究する地域の主たる使用言語が選択外国語の範囲内であれば、原則的にその外国語を外国語(Ⅱ)(1)(3問解答)として「外国語(Ⅱ)[選択外国語]」欄の(1)に記入し、もう一方の外国語を外国語(Ⅱ)(2)(2問解答)として(2)に記入すること。あらかじめ届け出たこの選択外国語の順位を試験場で変更することはできないので、記入後、再度確認の上、出願すること。
- (6) 氏名については、「ローマ字」欄にも記入すること。外国人で漢字圏の者は「氏名」欄に漢字、「ローマ字」欄にアルファベットで記入し、「フリガナ」欄に名前の読みを記入すること。また、外国人で非漢字圏の者は「氏名」欄にアルファベットで記入し、「フリガナ」欄に名前の読みを記入すること。
- (7) 「現在の身分」欄は、「出身大学等」欄に記載の大学等に在学中でない者のみ、所属機関、部局等の名称及び身分を記入すること。
- (8) 「履歴事項」欄(裏面)は、高等学校卒業から大学入学・卒業(又は卒業見込)まで詳しく記入すること。また、既に卒業した者は、大学卒業時から出願時までの履歴も詳しく記入すること。
- (9) 「社会人特別選拔出願者」用願書の「社会人活動状況記入欄」は、現在従事している職業等の社会人としての活動を、仕事の内容、雇用形態(常勤・非常勤の別)、1週あたりの労働従事時間等を含めて、具体的にできるだけ詳しく記入すること。

(10)貼付する写真3枚は、すべて同一のものを使用すること。

5. その他の書類作成に関する注意

(1)志望する専攻(分野)、受験外国語等の複数の書類に共通して記入する事項については、記入後、相違がないか必ず確認すること。

(2)大学に編入学している場合は、編入学前の大学等の成績証明書も提出すること。

(3)出願書類送付用封筒の両面を必ず記入し、出願書類等を封筒裏面に記載してある【出願書類等提出明細】の順に整理して封入すること。

(4)受験票送付用封筒に、受信場所(日本国内に限る)を記入のうえ、374円分の切手を必ず貼付すること。

(5)提出書類(各種証明書、論文等)に記載されている氏名と現在の氏名が異なる場合は、改姓名をしたことが確認できる証明書を添付すること。

また、願書に記載されている氏名と各種証明書等に記載されている氏名が異なる場合は、同一であることが確認できる証明書を添付すること。

6. 社会人の入学について

在職のまま下記の専攻に入学しようとする者には、学生募集要項7. 注意事項(5)について、下記のとおり補足説明する。

〔言語情報科学専攻〕

大学院に入学を許可された場合、在学期間中は大学院の学業に活動の重点を置くこと。在職のまま大学院に入学しようとする者は、入学手続の際に、在学期間中は大学院の学業を尊重する主旨の勤務先による承諾書を提出すること。

〔地域文化研究専攻〕

在職のまま大学院に入学しようとする者は、入学手続の際に、在学期間中は大学院の学業を尊重する主旨の勤務先の長(任命権者又はそれに準ずる者)による文書を提出すること。

〔国際社会科学専攻〕

在職中の者は、次の点に注意すること。

ア. 大学院に入学を許可された場合、在学期間中は大学院の学業に専念すること。

イ. 在職のまま大学院に入学しようとする者は、入学手続の際に、在学期間中は学業に専念させる旨を記した、勤務先の長(任命権者又はそれに準ずる者)による証明書を、可能なかぎり提出すること(証明書が提出できない場合でも、学業専念に関する勤務先の理解を得ておくこと)。また、長期履修制度の利用も選択肢の一つとして検討しておくこと。

7. その他

過去数年間の入試問題集は、下記において販売しているので、入手希望者は下記連絡先へ直接問い合わせること。

【駒場キャンパス】

東大生協書籍部(駒場)

〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1

東大構内駒場コミュニケーションプラザ 1階

TEL (03)5454-6182

(03)3469-7145

又は

【本郷キャンパス】

東大生協書籍部(本郷)

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

第2 食堂建物1階

TEL (03)3811-5481

(03)5841-7983